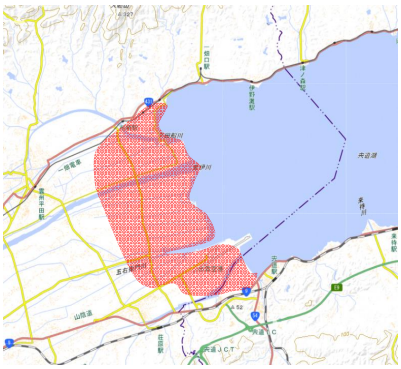
生物・生態サイトカード

通しNo.	B-10	更新日	2026/1/27
サイト名	野鳥の宝庫斐伊川（ひいかわ）本川河口		

基本情報	区分	☑動物　　□植物	
	生息地	出雲市斐川町（斐伊川本川河口・出雲平野）	
	分類	コウノトリ・タンチョウ：国指定特別天然記念物 マガン：国指定天然記念物	
	管理団体／保護団体／モニタリング		
	留意点	コハクチョウ：しまねﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ（準絶滅危惧）等	
サイトの解説	生物・生態	斐伊川が宍道湖に注ぐ宍道湖西岸の河口一帯には、中州やヨシ原が広がっており、背後には出雲平野の広大な水田が広がっている。ここは、日本最大級の野鳥の宝庫で、冬鳥を中心に多くの野鳥たちに出会える場所となっており、冬季を中心に全国から多くのバードウオッチャーが訪れている。 斐伊川本川河口を代表する野鳥はマガンとコハクチョウであるが、これら以外にも多くの野鳥たちが観察できる。猛禽類では、チュウヒやハイイロチュウヒ、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウなどがみられ、魚を餌としているミサゴは周年観察される。サギのなかまでは、アオサギ、ダイサギ、コサギなどの他、近年ヘラサギやクロツラヘラサギが周年みられるようになった。魚を食べるカイツブリのなかまも多く、カンムリカイツブリやハジロカイツブリの数100羽の集団が見られることがある。カモのなかまでは、ほとんどの種がみられ、ツクシガモやアカツクシガモも時々観察される。シギのなかまも春と秋の渡りの時期を中心に多くの種がみられ、珍鳥が出現した時などには全国から多くの野鳥写真家が押し寄せる。小鳥類では、オオヨシキリやセッカが繁殖し、冬場にはオオジュリンなども多く渡来してくる。ツルやコウノトリも時々姿を見せ、ナベヅルやマナヅル、タンチョウなどのツル類が越冬することもある。 このように、斐伊川本川河口一帯は太古からの湿地の歴史があり、大陸から近いことなどから多くの鳥類が観察される野鳥の宝庫となっている。	
	地形・地質、歴史・文化等	斐伊川本川河口を含む湖岸域は地形改変が古くから行われてきたため、土着の湖岸植生帯は湖岸延長の1割にも満たないといわれている。現在、魚や昆虫、鳥などの宍道湖の豊かな自然を再生するため、かつて湖岸で多く見られたヨシ原の再生が進められている。	
写真・図等	 斐伊川本川河口と野鳥たち	 斐伊川本川河口上空を舞うマガンの群れ	
参考文献	佐藤仁志（2015）松江市史 通史編1自然環境・原始・古代（松江市史編集委員会）：136-138．松江市． 佐藤仁志編（1985）宍道湖の自然．山陰中央新報社． 日本野鳥の会島根県支部（1997）島根の鳥．150-151．島根県．		